



「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate your thoughts in your early days

若き日に汝の体躯を養え

Nurture your body in your early days

若き日に汝の智能を磨け

Develop your intellect in your early days

若き日に汝の希望を星につなげ Aim your hopes towards the stars in your early days

TOP*NEWS

中等部・高校吹奏楽部 定期演奏会 開かれる

涙の定期演奏会

中等部吹奏楽部部长 3年A組 **加藤 和奏**

私たちは12月28日に第14回定期演奏会を行いました。3年生にとっては最後の舞台でした。この代は東日本大会で金賞という功績を残すことができ、非常に思い出深い年になりました。定期演奏会はみんなの思いが詰まった、大変素晴らしいコンサートになりました。

私たち3年生は、胸に大きな金色の花のコーサージュをつけ舞台上上がりました。1部の最後には今年のコンクールで演奏した「Cabin Crew」を演奏し、夏のコンクールの時とは違った楽しさを味わうことができました。2部はリングライトを持って来てくれた皆様と一緒に盛り上がることができました。

ここまでやりきることができたのは、日々お世話になっている先生方、そして日頃から支えてくれる保護者と部員のみんなのおかげだと思います。これからも中等部吹奏楽部をよろしくお願いします。



定期演奏会を終えて

高校吹奏楽部部长 3年4組 **小泉 菜々子**

私たち吹奏楽部は今年の1月6日に定期演奏会を無事に迎えることができ、1年間の集大成をお客様に披露することができました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、当たり前に行っていたことができなくなってしまったり、制限された中での活動が続くことが多かった昨年でもありましたが、その中でも部員同士で試行錯誤を重ね、努力し、乗り越えることができました。

3年生はこれにて引退となりますが、これからも高輪台吹奏楽部のご声援をよろしくお願いします。定期演奏会にお越しいただいた皆様、本当にありがとうございました。



部・同好会活動報告

ゴルフ部 羽賀亜衣未さん 関東大会出場

学びと課題

2年3組 羽賀 亜衣未

東京都の予選会をクリアし関東大会に出場することができました。結果は芳しくありませんでしたが、関係していただいた先生方、部活動の仲間へ感謝しております。今回の大会を通して感じたことは、予選会とは全く違うピリピリとした雰囲気と、他選手の技術の高さに驚きました。大会当日は十数メートルの風が吹いていました。私はなかなか風に対応できなかったのですが、その中でもうまい選手はちゃんと風に対応していることに悔しさを感じました。私は小学生の時にゴルフを始めたのですが、練習場に行くのは週1回のレッスンで習い事のような感覚でした。高校でゴルフ部に入りゴルフが楽しくなり、練習を頑張りましたが、昨年の同じ大会では予選を落ちてしまいました。そして今年、目標にしていた関東大会には出場できたものの、まだまだ練習が必要だと実感しました。今後、この経験を大事にして、練習内容、練習量を見直して次の試合でリベンジしたいと思います。



SSH活動報告

世界一行きたい科学広場 in 浦安で科学展示を披露

11月26日に東海大学付属浦安高等学校で行われた科学イベント「世界一行きたい科学広場 in 浦安」に、SSHクラス3年生9名がブース展示担当者として参加しました。

科学教室での貴重な経験

3年10組 内田 栞織

当日は22の団体が参加し、クロマトグラフィーや霧箱で放射線を見る実験、滝川洋二先生によるサイエンスショーなどが行われました。その中で私たちは「流動床～水みたいになる砂～」という実験を披露し、来場した方たちに流動床現象を体験してもらいました。多くの方に楽しんでいただけたと思います。また、私たちもたくさんの子もたちに、自然現象について教えるという貴重な経験をすることができ、多くのことを学ばせてもらいました。実験はまだまだ改善することができるので、今回の経験を活かし、より良いものにしていきたいです。



流動床を子どもたちが体験



内田さんの説明を聞く子どもたち



みんなで協力して頑張りました

東京都内SSH指定校合同発表会・小田原白梅科学コンテストに参加

12月19日に、本校SSHクラス3年生が、東京都内SSH指定校合同発表会(オンライン)に参加し、本校からは34件のポスター掲示と6件のオンライン口頭発表を行いました。また同日、ミナカ小田原コンベンションホールで行われた小田原白梅科学コンテストに2名の3年生が参加し、課題研究の成果を発表しました。

東京都内SSH指定校合同発表会に参加して

《発表タイトル》生物の有無によるアオミドロ量の変化

3年10組 嶋崎 遙人

課題研究を進める上で、実験に関することを調べたり、まとめたりすることが大変でしたが、パートナーの勝村君の協力のおかげで研究を終えることができました。今回の発表は3年間の集大成で、最後の発表でした。緊張してうまく発表ができず、少し心残りがありますが、伝えたいことを伝えられたと思います。とてもいい経験になりました。このSSH3年間で培ったスキルを活かして、大学や社会に出たときに活躍できるようにしていきたいと思いました。



オンラインで発表する勝村君と嶋崎君(右)

小田原白梅科学コンテストに参加して

《発表タイトル》アトラクタシュリンプ～照らすは光、彩るは四色の誘い～

3年10組 宮田 蒼葉

このような発表機会の体験が、素晴らしい経験となり、さらなる探求心を得ることができました。私たちの実験は結果があまり振るわなかったのですが、不安な気持ちで発表に臨みました。しかしそんな心境とは裏腹に、コンテストの審査員の先生方から質問やアドバイスをいただき、実験の失敗原因、新しい実験アイデアなど、多くの学びを得ることができました。他にも、他校の発表を聞き、私たちが考えもしないような面白い研究や発想を知ることができ、本当に貴重で興味を惹かれる素晴らしいコンテストでした。



発表者の宮田君(左)と村岡君。奨励賞を受賞

2022年度学校運営方針

実践目標

あらゆる行事を通して、豊かな情操を培い、
素晴らしい人間関係をつくりあげる

本校には、体育祭、建学祭、剛健旅行、スポーツ大会、芸術鑑賞、合唱祭、研修旅行、イングリッシュ・サマーキャンプ、Tokyo Sightseeing Tourなど、さまざまな行事があります。われわれ教員は、生徒たちがこれらの行事に主体的に取り組み、行事を通して人間的に成長できるようにサポートを行います。

生徒たちは、考えを出し合い、お互いの意見を尊重し、協力し合って、行事の成功を目指します。このような経験を通して、生徒たちは、達成感や充実感を味わうことができ、自分やクラスに自信と誇りを持つことができるようになります。そして、自分たちが努力することによって、他者の努力に気づくことができ、他者を認め、大切に思う気持ちを持つことができるようになります。

学校の行事というのは、生徒一人ひとりが、その過程で、集団の中での自分の役割や必要性、自己存在感や自己肯定感を感じ、将来必要となる社会的資質・能力を身につけていくためにとても重要な役割を果たしています。

新型コロナウイルス感染症の影響は、まだ続くようですが、本校では、生徒の成長の機会をなくさないように、可能な限り行事を実施していきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

作文コンテスト



中等部では今年度も「作文コンテスト」が行われました。今回の課題は「『日本が世界に誇れると思うもの』について具体例を一つ挙げて説明しなさい。また、それを大切にしていくなために何をすべきかを述べなさい。』でした。各学年のグランプリ作品を紹介します。

1年グランプリ

1年B組 石井 瑛智

僕が世界に誇れると思うものは「和食」です。その理由は三つあります。

一つ目は、栄養や塩分をほどよく摂取することができる点です。「和食」は主に一汁三菜が基本で味そ汁や焼き魚など少し塩分が強いものがありますが、白米などで味をうすめて食べることもあり、色々楽しめます。

二つ目は、おはしのみを使って食べられるという点です。「和食」はフォークやスプーンを使わずにおはしのみで食べることができるめずらしい日本の料理です。

三つ目は「和食」は無形文化遺産に登録されているという点です。日本の大切な料理としてのみならず、文化遺産としても守っていかなければならないのです。最近海外でも「和食」は健康的な食べ物として人気が上がってきていて、よく話題にもなっています。

このように「和食」の利点はまだまだたくさんありますが、日本の「和食」を世界に誇れるものとして、多くの人に知ってもらえればうれしいです。

2年グランプリ

2年B組 立石 柚乃

私が世界に誇れると思うものは日本語です。なぜ言葉を選んだのかというと、日本語の言い回しが美しいと思ったからです。日本語は実に繊細でとても奥深いです。例をあげるなら花が枯れるときの言い方も、花の種類によって異なります。桜なら散る、牡丹なら崩れる、雪柳なら吹雪く、梅ならこぼれる、椿なら落ちるなどと沢山の言い回しがあります。私はこれを初めて知ったときの感動を今でも覚えており、日本人として誇らしいと思いました。

この日本語独自の文化は、この先も残していきたいと思います。そこで、私が考えた方法は、日本語独自の言い回しや、文化を中学校や高校で習うというものです。日本語について深く学べる機会をつくることにより、習った生徒全員の関心を得ることはできないかもしれませんが、一部の生徒が興味を抱きかけとなります。これにより、日本語の美しさを未来へ繋げていけると考えました。

3年グランプリ

3年A組 加藤 和奏

私にとって日本が世界に誇れるものは、日本人の「人間性」だと思います。なぜなら、他の国にはない「姿勢」と「意志」があるからです。例えば、日本は至るところで設備などの環境が非常に整っていて、清潔感にもあふれています。私たちが気持ちよく使うために、見えないところできれいにしてくれる人がいます。その人たちが適当に仕事をしていれば、このような快適な環境は作れません。他人のために一生懸命働き、思いやりやもてなそうと思う人間性があるからこそ、素晴らしい環境を保つことができるのだと思いました。

このおもてなしの心を大切にしていくなためには、「変わらないこと」が重要だと思います。私たちが今の日本の大人たちの思いやりや真面目に働いている姿勢を見れば、その志を変わず引き継いでいくべきです。

その他にも日本には、外国に誇れるものが多くあふれています。それは、日本人が外国に誇れるような素晴らしい人間性があるからだだと思います。

入賞した生徒が取り上げた “日本が世界に誇れると思うもの”

1年 グランプリ B組 石井 瑛智【和食】
準グランプリ A組 岡田 悠希【新幹線】

2年 グランプリ B組 立石 柚乃【日本語】
準グランプリ A組 古山 蒼士【伝統工芸品】

3年 グランプリ A組 加藤 和奏【人間性】
準グランプリ B組 深見 玲【マナー】



入賞してニコリ
写真左から 岡田君、石井君、古山君、立石さん、深見君、加藤さん

2022年度 小論文コンテスト



左から 坂本さん、山田さん、平川さん、小倉さん

2022年11月10日(木)、高校3年生で東海大学進学希望者全員が「小論文試験」を受験しました。同じく、高校1・2年生は「小論文コンテスト」という名の下に同一テーマで小論文に挑戦しました。これは1年後、2年後のための予行練習という位置付けで行っているものです。

今年度は「コロナ禍でのあなたの経験をふまえ、どのような大学生活を送りたいと思いますか。あなたの考えを述べてください。」というテーマでした。

1年生、2年生からそれぞれグランプリと準グランプリが選出され、1月の朝礼で表彰がありました。以下に作品を紹介します。

高校1年生 グランプリ

1年9組 坂本 風帆

私は人との出会いや関わりを大切に大学生活を送ってみたいと考える。

私は中学二年生の春、コロナ禍で学校が閉鎖され、自宅待機をすることになった。それまでは当たり前のように学校に行き勉強したり、友人と遊んだりしていた。しかし、配信による授業を受けることになり、新型コロナウイルスへの感染を防ぐため友人と会うことも互いに避けるようになり、自宅で一人になる時間が増えた。一人でいる時間はとても寂しく、私は学校に通うことや友人と実際に会って話すことなど、当たり前だと思っていたことが突然できなくなることを実感した。その一方で、当たり前だと思っていた日常の中にある幸せに気がつくことができるようになった。それからは、友人との会話も学校での授業も大切に学校生活を送るようにしている。

大学に入学すると、今よりもさらに多くの人と関わることができると思う。志望する学部に入學すれば、趣味の合う人や自分と同じようなものに興味を持つ人と出会うことができるのではないかと考える。私はそのような環境の中で人との出会いや関わりを大切にしたい。そして、コロナ禍での経験や感じたことを思い出し、人と会話できることへの感謝の気持ちや幸せを忘れず、素敵な大学生活を送りたいと考える。

高校1年生 準グランプリ

1年5組 山田 南

私は、コロナ禍での経験を踏まえ、これから出会う様々な人と関わっていきたくて対人コミュニケーションスキルを身につけ、自ら学びの理解を深めて行動を起こせるような大学生活を送りたいと思う。なぜなら、現代の高校生や大学生は、コロナ禍があったことにより、将来の社会生活に対し「新しい人間関係を築くのが困難」と回答しているためである。

コロナ禍では、人と人との接触を減らすために学校が臨時休校になったり、オンラインでの授業になったりと、直接人がコミュニケーションをする場が減少していった。そうなった現在、生徒・学生はコミュニケーション能力が低下し、将来の社会生活での不安が増えていく。これは、当然のことである。私たち生徒にとって集団生活での経験がどれだけ重要なのか、身に染みて感じられる。なお、このような現状を乗り越える動きとして、前向きに考えることや、貴重な経験の一つとして学びの機会と捉えようとする傾向が高まってきている。

このように、コロナ禍での経験を通して、いかにコミュニケーションスキルを身につけることが大切か、そして前向きに考え、自ら学びの理解を深めて行動を起こしていくことが、これから生きていく上で重要になることを再確認することができた。私は、コロナ禍は決してマイナスだけではないと考える。重要なことに気づくことができるチャンスである。それらのチャンスを大切にしたい。

高校2年生 グランプリ

2年3組 平川 琉名

私は、対人コミュニケーションの大切さにコロナ禍を通して、気づくことができた。

まず、世の中がずっと緊急事態宣言が出された時のような状態が続いたらどうなるのか。それは、文章にも書いてあるように、無気力になったり不安を感じたりコミュニケーションスキルが身に付かないなどが起きてしまう。

このような状態がなくなるようにするためには、「コロナ」というものに向き合っていく必要がある。私は、向き合っていく上で大学生活では、「出来る時にやる」ことを心がけていきたい。話せる時にできるだけ多くの人とコミュニケーションを取ったり、出来る時に大学で多くの本を読み、先生の話を聞き様々なことを学ぶ。特別周りと違うことやすぐれたことをしているわけではないが、「出来る時にやる」は、大学生活に関わらず今からでもやるべきことだと考える。そして、これらを行うにしてもコミュニケーションが重要となる。だからコミュニケーションを取ることは大切なのだ。

以上のことから、多くの人とコミュニケーションをとることを忘れないで「出来る時にやる」ということを胸に刻んでこれからの生活を送っていききたい。これが出来た時、困難な状態でも不安も多くなる世の中だとしても、私はそれに前向きに向き合い進んでいくことが出来る。

高校2年生 準グランプリ

2年2組 小倉 由珠

今、私たちが送っている日々は普通ではない。普通の授業をはじめとし、行事や部活にも、かたい制限が付き物になっている。このような時世が学生時代に直面した私たちは、大学生へとステップアップした将来、どのような生活を送ればよいのだろうか。

「どんな学生生活を送りたいか」と聞かれると、正直よくわからない。けれど、制限や規則によって心の距離や仲間との関係が縮まりにくくなってしまおうような生活は送りたいと強く思う。また、その歳でしか楽しめないことに、遠慮なく臨みたい。

コロナ禍になったばかりの頃の休校になった時期、リモートでの授業や部活、学校で呼びかけられる様々な制限や決まり。コロナ禍になって、新たな経験を沢山してきたけれど、悪いことばかりというわけでもなかった。対面して一緒に過ごす時間はより特別で大切なものに感じる事ができた。異様な生活になってしまったなかでも、このような感情を経験できて良かったと思う。

私たちが大学生になる頃、どんな社会になるかは誰にも知ることができないけれど、今の生活を経験したことで生まれた前向きな気持ちを決して忘れずにいたい。大人へのステップアップとなるのだから、今のまま年を重ねず、最大限楽しむために何が出来るのか、経験を踏まえて自分で考えて行動へうつせる、その時が輝くような生活にしていきたい。

希望を星につないで ~aim your hopes towards the stars~

特定非営利活動法人 仕事への架け橋が主催する第18回「私のしごと」作文コンクールにおいて、森凌大君が「優秀賞」を受賞しました。このコンクールには全国の高校生・高等専修学校生から2,687件の応募がありましたが、「好きな仕事で、夢をかなえる!」というテーマで書かれた森君の作文「時代の波乗り雑誌編集者」は、作家の額賀澤さんら審査員から高く評価されたようです。なお、森君の作品は2022年12月5日付「専門学校新聞」に全文が掲載されています。

また、内閣官房拉致問題対策本部が募集し、全国の中高校生から2,635点の作品が寄せられた「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」作文コンクールにおいて、拉致問題を自分ごととして捉えた上田華凜さんの作品が「優秀賞」に輝きました。上田さんは政府から北朝鮮による拉致現場の視察に招待されたほか、都内で行われた拉致問題に関する国際シンポジウムにおいて、松野博一内閣官房長官兼拉致問題担当大臣から表彰状が贈られました。

3年1組 森 凌大



このたび、国語表現の授業の一環で行った作文コンクールにおいて、優秀賞を受賞することができました。

高校生において、仕事とは、近くもなく遠くもない未来に多くの人に訪れて、個人の人生を大きく左右させる存在だと私は思っています。高校3年生であれば、早い人で高校卒業後すぐ、大学に進む人でも4年後にはほとんどの人が仕事というものに出会うことになります。私はどうせ仕事をするなら好きな仕事をして生きていきたいと、昔から漠然と思っていました。今回この作文を書くにあたって、改めて自分の夢や将来について考えるいい機会となりました。

その中で考えたことは、とにかく年齢が若いうちに自分の好きなこと、興味があることを見つけて、将来の仕事につなげられるかということです。好きなことを見つけたら猶予が高校や大学だと思います。この貴重な時間を確かなものとする大学生活を今年の4月からは送っていきたくて考えています。

1年B組 上田 華凜



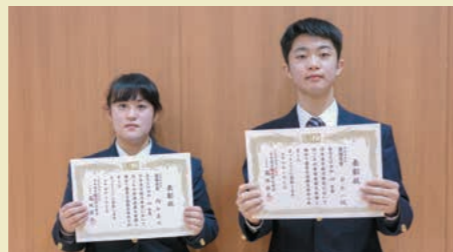
このたび、政府が募集する「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」作文コンクールで優秀賞を受賞することができました。また、新潟市の横田めぐみさん拉致現場の視察にも招待され、警察の方に当時の状況などを伺うことができました。

冷たい日本海の波が押し寄せる現場で私が思ったのは、「なぜ横田めぐみさんだったのだろう」ということです。この疑問は警察の方もわからず、もしかしたら永遠に判明しないかもしれません。しかし、このような疑問ですらこのコンクールがなかったら積極的に考えることもなかったと思います。「どこかの誰かに起きた悲しい事件」でしかなかったと思います。

今回、私は一つのきっかけからさまざまなことにチャレンジし、考え、伝えることの大切さを学びました。拉致や人権問題は国家レベルの大きすぎる問題ですが、私にもできることはあります。それは自分事のように考えていくことを続けていくことだと思いました。

漢検2級に2名が合格!

10月21日に校内で実施された2022年度第2回日本漢字能力検定(漢検)において、2年2組の内山美咲さんと3年A組の中木一誠君が2級に合格しました。2級のレベルは高校卒業・大学一般程度とされており、すべての常用漢字(2,136字)の読み書きなどが出題されます。特に中木君は200点満点中184点と、合格点を大きく上回る好成績を取りました。本校では毎年2~3回の受検機会を設けておりますので、来年度も多くの生徒が漢検に挑戦することを期待しています。



なお、他の級の合格者数(および合格率)は以下のとおりです。

- 準2級(高校在学程度) …… 7名(24.1%)
- 3級(中学校卒業程度) …… 12名(54.5%)
- 4級(中学校在学程度) …… 13名(56.5%)
- 5級(小学校6年生修了程度) …… 14名(82.4%)

その純潔の生涯に学ぶわれらに力あり

「第33回忠臣蔵赤穂義士行列」パレードに参加

(主催: 財界二世学院 赤穂義士行列実行委員会)

時は元禄、江戸城内で吉良上野介に斬りかかったために即日切腹となった主君・浅野内匠頭の仇を討つために集まった義士たちは、12月14日に吉良邸へ討ち入り、本懐を遂げました。それから320年後の2022年、本校生徒有志10名が義士たちの装束を身にまとい、築地警察署から泉岳寺までの道のりを練り歩き、義士祭を盛り上げました。



1年4組 塩崎 迅一郎

●茅野 和助(仕官4年ながらも当初から盟約に加わった忠義の士)役

人生でどれほどの人が、刀を持つことがあるでしょうか。先日、赤穂義士行列に参加し、なまくらではありましたが、刀を持ちました。武士がいなくなり、銃が世界的に使用され、刀というものがあまり使われなくなった昨今の中で、これを持った時の重みは独特なものでした。関東だと坂東武者と呼ばれる者たちが、さらに重いものを持ち、人を斬っていたと思うと戦慄してしまいます。

今回の経験で、赤穂義士がどれほど愛されているかわかりました。築地から泉岳寺に向かう中で、多くの人が行列を見てその話をしているのが聞こえました。興味半分で見つめる方も多かったのですが、皆が記憶しているというのはいすごいことだと思います。また、その中には異国から来られた面々も見え、世界的な知名度の高さを感じました。

赤穂義士の衣装を纏い、私はとても浮かれていましたが、数世紀前の本物たちはどんな趣で纏ったのか、それをもっと感じられるようにしたいです。



泉岳寺中門前にて(1年生)



芝・増上寺にて(2年生)

2年10組 吉田 開

●間 喜兵衛(無口で温厚な老士。討ち入り時は敵を槍で突き伏せる活躍)役

今年初めての参加となった赤穂義士祭、普段生活する上では感じる事の出来ない体験だった。今回、私が扮したのは勝手方吟味役・間喜兵衛光延。赤穂浪士四十七人のうち唯一息子2人と参加し、生を全うした人物である。当時68歳、赤穂義士中2番目に高齢でありながら、槍で敵を倒したといわれている。

彼の役をする上で大きな不安があった。主に忠誠を誓い、死まで共に過ごした人々になり切れるのか…。そんな中、吉良の首を掲げていた子孫の方と話すことができ、さまざまな思いを聞いた。「忠臣蔵討ち入りから320年も経つが、今でさえ言われ続ける吉良もかわいそう」と言いつつも、主への忠誠を誓い人生を共にした人々の生き様が今でも受け継がれていることに安心しているように見えた。

参加したからこそ見えた新しい景色がとても新鮮でいい経験につながったと感じている。また、参加者の方との交流も大きく、地域に対しての関心も高まった。ぜひ来年もあれば積極的に参加したい。



その他の本校参加者

- 1年 4組 磯部 瑛乙……………村松 三太夫(刃傷事件直後に赤穂へ駆けつけ、同志に加わった忠臣)役
- 1年10組 アフマド アルシェヒ……………奥田 貞右衛門(江戸急進派の代表格・奥田孫太夫の養子)役
- 1年10組 兼子 悠斗……………寺坂 吉右衛門(四十七士中、唯一の生き残り)役
- 1年10組 萩森 光希……………間 新六郎(吉良への一番槍を挙げた兄や父・喜兵衛とともに同盟へ参画)役
- 1年10組 松本 謙信……………堀部 弥兵衛(最年長者。「高田馬場の十八人斬り」で有名な安兵衛の義父)役
- 2年 2組 瀬戸 俊一郎……………菅谷 半之丞(江戸で町人に扮し、敵情偵察として貢献)役
- 2年 9組 宇津木 嵩生……………大石 瀬左衛門(主君切腹の報を江戸から赤穂まで届けた早使の一人)役
- 2年10組 西崎 孔明……………中村 勘助(大石内蔵助の命で江戸急進派の鎮撫に奔走)役

※義士の人物紹介は赤穂市ウェブサイト(<https://www.city.ako.lg.jp/kanko/kanko/akogishi/index.html>)よりの抜粋に基づいています。

学年だより 中1



校外活動 ～寄席鑑賞～

12月2日、両国にある「お江戸両国亭」にて寄席鑑賞を楽しみました。



想像すること

A組 牛田 帆香

私は先日、日本の伝統芸能の落語を見に行きました。私が小学生の時に、落語家の人が私の通っていた教室に来てくれて、お話をしてくれたことがありました。だから私にとってはとても親しみやすかったです。

落語を聞いてわかったことがあります。それは、「想像する」ということです。物語を聞いている中で、扇子と手ぬぐいが、どのようなものに変化しているか想像する必要があります。また、途中でやっていたバイオリンとタップダンスの音も、しっかり聞き取ってどんな音に聞こえるか想像しないとけません。

私は落語を聞いて、タヌキが俺に負け、手ぬぐいがお礼に変わる物語の世界に入ることができました。そして、バイオリンの音を聞くときに、言われたものを想像すると、本当に目の前にあるように感じられました。感じる事ができ、聞いていて楽しかったです。

私は、日々の物事に想像力を働かせながら生活すれば、もっと楽しくなると思いました。

話す力の大切さ

B組 井本 大介

初めて落語を近くで見て、自分が思う落語は、ただしゃべって笑わせるだけかと思っていましたが、実際には落語にはさまざまな種類があり、それぞれに違った物を使い、面白い表現方法があることがわかりました。

例えば、ハンカチや扇子を使ってお金を表現していたことや、動物の鳴き声や物の音を靴などで表現するなどさまざまな表現方法があり、とてもインパクトがあり面白く感じました。その他にも、場面を変えるごとに音を出すなど落語の中にはたくさんの工夫があり、落語の奥深さを学ぶことができました。

また、落語は見てると「話す力」が身についてくる感じがしました。話すことに悩んでいる人がいても、落語の「話し技術」を学んだら良いと思いました。

コロナ禍により対面で人と話す経験もこの数年少なかったため、今後は自分も落語家のように「話す力」を身につけて、それをさまざまな場面で使えるように、日々努力をして頑張るようにしようと思いました。

キャリア教育で初めての経験!

今回のキャリア教育では、田中貴金属と日本ブラインドサッカー協会の方に来ていただき、ブラインドサッカーの疑似体験や金の価値について学びました。



「見えない」を体験中

《日本ブラインドサッカー協会》

A組 鶴岡 沙友里……プレーする選手が、声とボールの音でコミュニケーションすることが印象に残った。ブラインドサッカーのルールや見どころをもっと知り、大会などにも行ってみたい。

B組 新居 健志……日本だけでなく世界中の体の不自由な人や、さまざまな困っている人の手助けがしたいと思った。

B組 城 惺太……目を使わないで絵を描くという体験では、目が見えないと脳内では描けているつもりでも、実際に見てみたら全然違う場所に描いていたので、目が見える重要さや大切さを知ることができた。



想像より重かった! 800万円を手にとり...

《田中貴金属》

A組 小林 祥ノ介……金属にはいろいろな種類や特徴があるのを知れた。これからはアイスを食べる時は熱伝導率が高い素材を選んでいきたい。

A組 中山 雄翔……今の金の価格が1g約8,000円、1kgで800万円もするのは、自分の予想をはるかに超えていた。また、金箔の作り方が、金を1mmにしてそれを平べったくする技術ですごいなと思った。

B組 遠藤 直輝……実際に金を持ってみたら、想像の5倍くらい重くて驚いた。手袋越しとはいえ初めて高価で希少な金に触れ、貴重な体験をさせてもらった。



アイスにすーっと入ってびっくり! スプーンがっつ、冷たい!

学年だより 中2

2023年の抱負

中等部2学年の4月から12月までに行ったさまざまな活動で学んだことを踏まえ、2023年の抱負を書いてもらいました。生徒一人ひとりにそれぞれの成長と目標があり、良い1年を迎えてほしいと思います。写真は今年の日常風景となります。



テレビ朝日のアナウンサー体験



クリスマス会の脱出ゲーム



ビジョン株式会社の赤ちゃんを知る授業

「責任と反省」

A組 添田 淳矢

昨年一番頑張ったことは勉強です。一昨年は成績が悪く、補習に引っかかってしまいましたが、昨年はテストで頑張った点数を取ることができたので、成績不振になることもありませんでした。今年もテストで良い点数が取れるように頑張りたいです。また、部活動では副部長になり、自覚や責任を負う立場になったので、見本になれるようになりたいです。まず初めに、いつも遅刻ギリギリで登校しているので、もっと早く登校したいと思っています。

「2022年の成長を通して」

A組 山田 蓮太郎

昨年は荒堀先生に勧められて級長になりました。やってほしいと言われた時は嬉しかったです。級長をすることで昨年よりもポジティブになり、クラスの人と会話をするようになりました。残りの3か月は、みんなをまとめてメリハリのあるクラスにしたいです。成績も2年になって上がったので、3年になってこのまま良い成績が続くように勉強したいです。

部活動では、副部長になって部長を支えられるように頑張りました。今年も中等部の最高学年になるので1、2年生のお手本になるように、学校生活を送りたいです。



後期スポーツ大会

「コントロール」

A組 鈴木 万明

昨年は振り返ってみると、たくさんの機会を通じて学んだことがあります。それは、もっとうまく自分の気持ちを伝えたいといけなかったこと。友達とけんかなどをして仲直りする上で、話し合いの場で自分の思っていることが言えなかったり、気持ちを爆発させてしまい、周りを不快にさせてしまったこともありました。今年も中等部最高学年になる年ですので、自分の気持ちに向き合っ、感情をコントロールできるようにしたいです。

「生徒会長」

B組 高木 翔天

僕の2023年の抱負は、生徒会長として健康に気をつけながら充実した学校生活を送ることです。また、勉強や部活動の両立ができるように頑張りたいです。今年も昨年以上に成長できる年になるよう、目標を忘れずに精進していきたいです。卯年なので、ウサギのように跳びはねて飛躍できる年にしたいです。

「やりたいこと」

B組 田代 航己

2022年では、プログラミングでゲームを作るという趣味を見つけることができました。今はまだ2つしか作れていませんが、3学年に上がるまでには、今作っている分も含めて2つ作りたいです。

「3年生」

B組 伏谷 祐良

2023年の抱負は、建学祭を昨年よりも良いものにすることです。自分は建学祭実行委員に所属しており、今年度の建学祭のアンケートに「コロナ前の建学祭の方が面白かった」という内容のものがありました。自分にとっては昨年の建学祭はとても楽しかったのですが、次回はコロナ前よりも楽しいと言ってもらえるよう頑張りたいです。



港区手話講座



日本科学未来館

学年だより 中3



～自衛隊によるキャリア教育～

12月1日(木)、午前中はスポーツ大会、午後にはキャリア教育が行われました。中部3年生は短時間でしたが、自衛隊入隊を体験して、自己防衛や応急手当の仕方を学びました。



準備の大切さ

A組 森田 晶樹

今回の自衛隊の方々によるキャリア教育では、命を守る行動は一人ひとりの意識やあらかじめ準備しておく心構えが大切だと感じました。なぜなら、災害や緊急事態などが起きた時に周りに人がいる保証はなく、その場で何もできなければ、自分自身を守ることができないからです。

ふと思えば、自宅の防災セットがどこにあるのか、明確に思い浮かべることができませんでした。また、タンスなどの大きな家具が固定されているのかもわかりません。そのような小さなことでも、準備に対して万全な状況を作っているのといかないのでは、大きな差異が生まれると思います。それに加えて体の不自由な人や高齢者が近所にいる場合は、素早く対応することが必要となります。自身を守りながら、他人に配慮することも大切なことだと感じました。自分の準備が万全なのかと疑問を抱くようになりました。

今回の自衛隊の方々の話を聞いて、自身を守る準備と他人に配慮する行動を心がけようと思いました。

すべてのキャリア教育を終えて

B組 白土 光優

中部部すべてのキャリア教育を終えて一番必要だと感じたことは、キャリア教育で学んだことを実践してみることです。せっかく企業や公務員の方に来校していただきお話しいただいても、実際に実践しないと意味が半減すると思います。

今回のキャリア教育は、自衛隊の方々によるアクティビティーでした。ロープの縛り方や応急手当など、日常ではなかなか使う機会が少なく、頻繁に使える技術ではありませんが、ここで使えるなと思ったものは、どんどん実践していきたいと思いました。特に高い所から落ちた時にけがを軽減させる体術は、習得も実践も難しかったです。身体の柔らかい人や身体を動かすことが得意な人には難しくないかもしれませんが、今の僕には習得できませんでした。だからこそ、日頃からできる範囲で身体を動かしたり、また多くの知識を得たりして、いろいろな技術を習得しようと思いました。

このように、今までのキャリア教育で学んだことを最大限に生かして、実際に実践していきたいと感じました。



ロープ作り



5点着地



護身術



～校外学習 劇団四季「ライオンキング」～

12月2日(金)の校外学習では、劇団四季による「ライオンキング」を観劇しました。華やかな世界に生徒たちも大変魅了されたようです。



職業に対する誇り

A組 大野 いずみ

私はこの鑑賞教室を通して、自分の仕事に対して興味を示し続けることはとても大切だと考えました。今回鑑賞した「ライオンキング」では、全キャストがとても楽しそうに演技していて、演技をすることが心から好きなのだと感じました。何よりもお客さんに感動して帰ってもらいたいという熱い思いが伝わってきました。

このことから、働く上で大切なことは、自分の職業に誇りを持ち、楽しみながら一生懸命仕事に取り組むという姿勢が必要だと思いました。しかし、興味を持ち続けることは簡単なことではありません。時にはモチベーションが低くなってしまふこともあるかと思ふます。そのような時、私ならばどうやって楽しみを見つけて仕事を続けるのだろうかと考えてしまいます。

今はまだその方法が明確に見つかっていませんが、残りの中部部生活や今後の高校生活で見出していきたいと思ふます。

裏方の仕事

B組 香川 征太郎

僕は今回の劇団四季による「ライオンキング」を観て、裏で働く人の重要性を感じました。どんな仕事でも表に立って活躍する人もいれば、裏でその人たちを支える人もいることに改めて気づかされました。

劇中、さまざまな場面で裏方や脇役として動いている人たちがいました。多くの人からは注目されないかもしれませんが、この人たちがいるからこそ場面設定が明確になり、主役が華やかに映るのだと思ふます。これは劇だけでなく、その他のことでも当てはまると思ふます。僕はサッカーをしていますが、チームを指揮する監督、フィジカルコーチ、試合を取り仕切る審判員、あるいは警備員やボールボーイなどが裏で動いています。他にも映画やテレビ、そして医療現場など挙げればきりが無いほどの裏方の人たちがいます。社会はそうした人たちの支えによって成り立っているのだと再認識しました。

僕は今まで表の部分しか見てきませんでしたが、これからは裏で活躍する人たちにも注目していきたいです。

学年だより 高1

泉岳寺参拝

～赤穂浪士に思いを馳せて～

高校1年生は、事前学習として『忠臣蔵の真実』を視聴し、クラスごとに泉岳寺参拝を行いました。実際の歴史に触れ、学びを深める貴重な機会となりました。生徒の感想をご覧ください。



お線香をあげました



冬紅葉もキレイでした

1組 福岡 千果

実際に足を運んでみて、ビデオで見るよりも、直接肌で感じる事ができ、衝撃を受けました。また、他県から足を運んでくる人がいて、人々にとって忘れられないような事件なんだと感じました。知識だけでなく学んだことをこれからの生活に役立てられるようにしていきたいです。

2組 具志堅 涼介

事前学習では赤穂事件など自分の知らなかったことを学んでから、浅野長矩と赤穂浪士のお墓などを見て回りました。身近にあるのに詳しく知らなかった歴史を知り、学ぶことで、視野が広がるキッカケになりました。今回の泉岳寺参拝では、歴史を知る大切さ、素晴らしさを学ぶことができました。

3組 高沢 豪毅

泉岳寺参拝を行い、事前に学んだ忠臣蔵の歴史などを自分の目で見る事ができました。切腹を行った場所では当時の状況を想像することができ、浅野長矩および赤穂義士墓所では、主君の仇を討った47人の赤穂浪士の一人ひとりの生き様を感じる事ができました。

4組 西井 成都

事前学習のビデオを見て、江戸城で起こった赤穂事件について、今も昔も人間関係のトラブルはあまり変わらないと思いました。泉岳寺参拝では、討ち入りを果たした赤穂浪士の墓を実際に見て、学校の近くにある泉岳寺にそのような時代背景があることを知れたので、以前より歴史に興味を持つことができました。

5組 西井 理偉

僕は泉岳寺に行きました。そこで線香をあげたときに、一番早く亡くなった人の年齢が16歳であると知りました。自分と同じ年で亡くなるのは早すぎると思いました。たくさんの方が亡くなったことについて深く考えさせられました。この経験を今後の人生で役立てられたらいいと思いました。

6組 水島 健斗

泉岳寺を参拝して、ビデオで見た内容などの歴史を肌で感じる事ができました。泉岳寺の中では、お線香をあげ、泉岳寺内を散策しました。散策してみて、歴史ある建造物がきれいに保たれていること、多くのお線香があげられているのを見て、たくさんの人に親しまれていることがわかりました。貴重な経験ができました。

7組 今村 優志

泉岳寺に参拝した際に、大石内蔵助良雄の銅像や首洗い井戸を見ました。私は銅像の向いている方向には意味があるということを知りました。泉岳寺内を見た後、赤穂義士墓所にてお線香をあげて帰りました。今回の泉岳寺参拝を通して、いろいろなことを学ぶことができたのでよかったです。

8組 澤野 元

私は、泉岳寺について知らないことが多く、事前学習で理解を深め、実際に赤穂浪士の埋葬されているお墓に線香をあげることができて、いい経験になりました。泉岳寺の参拝を通して、身近なことについて調べ、触れることの大切さや面白さを学ぶことができました。

9組 土田 夏輝

事前学習では、松の廊下の刃傷事件から大石内蔵助らの打ち首に至るまでを学びました。参拝では、赤穂浪士のお墓にお参りをし、実際に首を洗ったと言われる首洗い井戸を見て、ここで本当に人の首を洗ったことに驚きました。こういった場所が学校の近くにあるのはいいなと思いました。

10組 今井 佳伸

私は、泉岳寺参拝や事前授業を通して、赤穂浪士から「自己犠牲の精神」を感じました。仇討ちなんてしなければ、赤穂浪士たちはその後の人生を歩むことができたはずで。ですが彼らは主のために自分たちの命をかけることを選びました。彼らのように自分を犠牲にしても、仲間のために行動できる人になりたいです。

学年だより 高2



新部長からのメッセージ ②

今月号も新部長からの意気込み、目標を紹介します。

女子バスケットボール部

9組 岡島 美空

私たち女子バスケットボール部は、都ベスト8を目標にし、日々練習に励んでいます。10人という少ない人数ですが、一人ひとりが一生懸命取り組みますので、応援をよろしくお願いいたします。

男子バスケットボール部

7組 大矢 陽希

私たち男子バスケットボール部は、東京都ベスト16以上を目標に日々活動しています。この目標に向かって、部員47名全員で一生懸命練習しています。新しくチームの伝統を築き上げられるように頑張ります。

ソフトテニス部

9組 松田 航星

私たちソフトテニス部では、個人戦都ベスト64を目標に、限られた時間を大切に練習しています。部内の雰囲気も良く、互いにアドバイスをし合いながら目標に向かって努力しています。

ダンス部

3組 南郷 綾香

私たちダンス部は、全国大会優勝に向け日々練習しています。この2、3年はコロナの影響で全国大会を辞退するという悔しい結果になりました。今年こそは全国大会の舞台上で踊り、1位を持ち帰ります！

アメリカンフットボール部

9組 久保 日向汰

アメリカンフットボール部では、関東大会進出を目指し日々精進しております。チーム全体としてここ数年で一番人数が多いため、先輩方の結果を超えられるように頑張りますので、応援をよろしくお願いいたします。

アーチェリー部

9組 藤本 英

部員の多くが高校から始めたということもあり、先輩後輩関係なく活動できるように、部長として一生懸命頑張りたいと思います。また、先輩方が残した記録を超えたいです。

野球部

7組 鯨井 稜眞

野球部新部長の鯨井稜眞です。夏の大会では3年生がベスト16という結果を残しました。私たち1、2年生は、甲子園出場という大きな目標に向かって日々練習をしています。応援をよろしくお願いいたします。

硬式テニス部

6組 吉田 藍斗

今年の目標は東京都ベスト8に進出することです。新チームで大会のメンバーを決めるため、チーム全員が競い合い高め合っています。これからも応援をよろしくお願いいたします。

卓球部

5組 針ヶ谷 諭史

卓球部は、関東大会出場を目標に練習に励んでいます。部内は先輩後輩、男女関係なく仲が良いです。でもお互いに良い意味で意見を言い合えるので、そのチームワークの良さを生かして頑張ります。

サッカー部

2組 生駒 匡悟

私たちサッカー部は、一人ひとりがチームのことを考え、一丸となって日々の練習から全力で取り組んでいきます。今年こそ選手権に出場できるように頑張りますので、応援をよろしくお願いいたします。

物理化学部

10組 内木 悠太郎

物理化学部は、日ごろから科学について自由に議論、実験しその結果を共有する部活動です。また、生物室の生き物たちの飼育をしています。先輩方から受け継いだこの部活動に責任を持って受け継いでいきます。

演劇部

7組 牧野 玖美

私たち演劇部は、総勢10人で活動しています。少人数の部活動ですが、全員の仲が良く、楽しく活動しています。今年度は地区大会にて賞をいただきました。来年度はこの結果を超えられるよう精進します。

マルチメディア部

9組 渡邊 勇也

これからの社会において、仮想空間や多彩なデジタル技術はとても重要になりつつあります。そこで私たちは、何年先にも通用するような技術や、素晴らしいデジタル作品を創り上げていきます。

放送部

5組 福島 瑠那

放送部では学校行事の裏方をすることが多いので、さらに行事が盛り上がるように頑張ります。また、最近では大会に出場する機会が増えてきているので、部員全員で全力で取り組んでいきます。

軽音楽部

9組 佐藤 志秋

軽音楽部では、大会で良い結果を残して多くの人に自分たちの音楽を聴いてもらうのはもちろんのこと、友達や家族など近くで応援して下さる方にも届けられるように、たくさんのライブを開催していきたいです。



学年だより 高3



ボランティア活動(B3リーグ横浜エクセレンス)に参加して

高校3年生は、11月19日にプロバスケットボールチームB3リーグ横浜エクセレンスのボランティア活動がありました。チームスタッフで本校卒業生の今村洸太さんと瀧澤真史さんよりお声がけいただき、10名の希望者が参加しました。生徒たちの体験談をお届けします。

4組 加藤 まわた

今回、横浜エクセレンスのボランティア活動に参加して感じたことは、私が想像している以上に運営をするというのは過酷な仕事だということです。運営と一言で片付けられていても、やらなければならないことはたくさんあって、その作業はやっていることが単純でも決して簡単ではないということを実感しました。特に試合が終わったあとが仕事の本番のようで、スタッフの方々はとても地味な作業をテキパキと行っていました。また、今回現場で働く方たちとお話しをすることができて、自分の将来を考える上でとても貴重な体験だったと感じています。そして、ボランティアに参加していなかったら絶対にわからなかった仕事などを見つけることができて、それらを体験できたことで私は、自分の将来についてもっと真剣に考えるきっかけになったと感じています。

4組 中川 真結

今回、横浜エクセレンスのボランティア活動に参加して、私がいつもプロバスケットチームの観戦や応援ができるのは、運営の方など裏方の支えがあってこそなんだと知ることができました。また、入場案内や物販、ファンクラブの方の案内、コート作りのためのテープ剥がしなどを実際に行わせていただき、試合中はもちろんですが、試合前後の仕事が本番のように感じました。さらに、現場で実際に普段働かれている方々とお話しをすることもでき、将来について考えなくてはならない年齢になりつつある私たちにとって、とても貴重な体験をさせていただいたと思います。物販スペースにしていると、ファンの方一人ひとりの温かさや、選手への思いを感じることができ、試合前に挨拶に来てくださった横浜エクセレンスの方々の思い出し、チームの方が素敵だからこそ応援したくなるのだろうと感じました。これからも地元で愛されるチームであってほしいと思うとともに、B2、B1へと上がってほしいですし、活躍を願っています。

6組 後藤田 宗孝

私が今回の活動に参加した理由は、「自分の知らないこと、やったことに挑戦して新しい自分を見つきたい」と思ったからです。なぜこのようなことを考えたのかというと、私は日々自分が何者かということを考えていました。けれど、何も思いつきませんでした。しかし、バスケの「ボランティア・スタッフ」という言葉が私に刺激とワクワクを与えてくれました。私は立候補し、当日を迎えました。私はこの仕事が、ただの仕事ではないことを知りました。例えば、ボランティア・スタッフであっても、チームの理念を共に守っていくことを約束します。そのため、ただ与えられた仕事をこなしているだけではないことがわかり、新しい刺激をもらいました。今回の機会が私が学んだことは、「人をよく観察して、その人を喜ばせるように動く」ということです。私は他のスタッフの方々とお話しをして、一緒に仕事をする中で、新しい考え方や裏方の人の大切さ、重要さがわかりました。この体験を終えて、私は、私の知らない他の新しいことへ挑戦したいという気持ちがさらに高まりました。

10組 岡本 大悟

もともと、私は小さい頃から野球観戦によく連れて行ってもらっていました。観客としてスポーツに関することはあったのですが、裏側について全然知りませんでした。今回、このようなボランティア・スタッフとしての活動の機会があると知り、スポーツは異なりますが、いつも観戦している裏ではどのような活動があるのだろうと思い、参加しました。実際に私が行ったボランティアの内容は、来場者の手荷物検査とその日のパンフレット配布、試合後の撤収作業でした。試合時間は約1時間半ほどだったのですが、それを行うために多くの時間を使って準備と片付けを行っているのを知り、非常に驚きました。今回の貴重な経験を忘れず、今後人と関わることをする際に生かしていきたいです。



佐藤誠人選手を囲んで(左から4番目)



2列目一番左が瀧澤真史さん、一番右が今村洸太さんです

お知らせ

基礎力判定試験

高2:2月16日(木)／高1:2月17日(金)

試験科目 ●国語 ●数学 ●英語 ●理科 ●地理歴史・公民

4月10日(月)実施予定の学園基礎学力定着度試験のプレテストです。
希望する進路の実現に向けて、しっかりと準備をしておいてください。

スポーツ大会(本校アリーナ)

高1:2月16日(木)／高2:2月17日(金)

さらにクラスの団結を深めましょう!

行事予定

※予定が変更になる場合があります。

February 2月

March 3月

- 1日(水) 中等部第1回入学試験(生徒自宅学習日) マナー講座(中3)
- 2日(木) 中等部第1回入学試験合否発表
- 3日(金) 中等部第2回入学試験(中2・3、高校生自宅学習日)
Tokyo Sightseeing Tour(中1)
- 4日(土) 中等部第2回入学試験合否発表
- 5日(日) 中等部第3回入学試験(生徒自宅学習日)
- 6日(月) 中等部第3回入学試験合否発表
- 7日(火) 朝礼 短縮 卒業試験答案返却(中3)
- 8日(水) 金曜日の授業
- 10日(金) 高校一般入学試験(生徒自宅学習日)
- 11日(土) 建国記念の日 高校一般入学試験合否発表
- 14日(火) 校医相談日⑩
- 15日(水) 専門医によるカウンセリング⑥
- 16日(木) 基礎力判定試験(高2) スポーツ大会(アリーナ:高1)
特別時程(中等部)
- 17日(金) 研修旅行[~21日](奄美大島:中3) 基礎力判定試験(高1)
スポーツ大会(アリーナ:高2) 特別時程(中1・2)
- 19日(日) 新入生制服採寸・教材販売(中等部・高校推薦)
- 21日(火) 木曜日の授業
- 22日(水) 生徒休業日(中3)
- 23日(木) 天皇誕生日
- 25日(土) 登校日(高3)
- 26日(日) 新入生・保護者登校日(中等部)
新入生制服採寸・教材販売(付属・高校一般)
- 27日(月) 自宅学習日
- 28日(火) 後期期末試験(中1・2:~3月2日)(高1・2:~3月3日)

- 4日(土) 3年生を送る会(1時限目カット)
高輪会入会式(高3)
2限から特別授業日
新入生制服採寸・教材販売(高校延納)
- 5日(日) 第74回(高校)・第14回(中等部)卒業証書授与式
卒業祝賀会(品川プリンスホテル)
- 6日(月) 振替休日(3/5分)
- 7日(火) 生徒自宅学習日
- 8日(水) 答案返却 教科書販売(新高3)
- 9日(木) 生徒自宅学習日(~10日)
- 11日(土) 特別授業(~16日)
- 16日(木) 特別授業(5・6限カット 3/4分)
- 17日(金) 生徒自宅学習日
- 18日(土) 修了式・離任式 教科書販売(新高2)
- 21日(火) 春分の日 新入生クラス分け試験(高校)
- 22日(水) 振替休日(3/21分)
- 24日(金) 春期講習(中1・2:~27日)
- 25日(土) 第4回後援会委員総会

編集後記

今月24日でロシアによるウクライナ侵略から1年が経過します。多くの物資を輸入に頼っている日本において、海外情勢が生活に与える影響の大きさを再確認した人もいるでしょう。われわれも水だけは自前で用意することができますが、自治体ごとの「水自給率」を考えると、川下で暮らす人々は“水がめ”を抱える川上の地域に降った雨雪や地下水に依存しているケースがほとんどです。ウクライナの首都・キーウを流れるドニプロ川の源流はロシア北西部のヴァルダイ丘陵です。現地でも安全に生活用水が確保されていることを願ってやみません。(の)

東海大学付属高輪台高等学校・中等部

TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ:<https://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>